

＜先週の説教から＞

『ルカ⑩一人のはらわたを究める方』

武田真治牧師

エレミヤ 17:9~10 ルカ福音書 6:39~42

本日のルカによる福音書 今日の箇所にあるイエス様の教えはとても有名なたとえ話です。即ち「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気がつかないのか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになる」です。そして、昔からよく、このたとえ話を借りて『だから人をあれこれ批判する前に自分のことを顧みなさい！』とか『何より先ず、自己反省をしなさい！』等と説教されて来ました。皆様もそのようなご記憶がおありではないでしょうか？

ただ、イエス様は何のためにこのたとえ話を為さったのでしょうか？ 自己反省や自己吟味を欠かすなど教えたかったのでしょうか？ 聖書をちゃんと読みますと、上記のみ言葉には、続きがあり「はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」と終わっているのです。つまり、自分の目から丸太を除くことが目的ではなく、“他者の目にあるおが屑を取ってあげること” こそが最終目的であり、自分の丸太を除くことはそのための手段と言われているのです。自己吟味はむしろそのためにこそ、経るべき過程ニプロセスなのです。

考えてみれば、逆に、ここで私たちが誰か他者に自分の目の中にあるおが屑を取ってもらう立場になったとしたらどうでしょうか。それはかなり、勇気の要る、怖い体験になるのではないでしょうか？ 余程、親しい人でなければ、このことを『やってもらおう』とは思いませんね。相手にすべて委ねる、信頼する気持ちが無ければ、とても出来ません。

実は、まさにこの点をイエス様が考えておられるのではないかと思います。そのような“お互いに相手の目の中にあるおが屑を取り合える”ような関係ニ間柄になってほしいと！ それこそが眞の「兄弟（＝信仰の仲間）」同志ではないかと。目指しておられるところはここなのです。そのために自らの

行動やあり方を律し（＝目の中の丸太を自ら取り除き）、そして、お互いに切磋琢磨できる（＝相手のおが屑を取り合える）」同志であってほしいと期待されている言葉なのです。

以上の意味で、その他の今日の箇所にある「目の不自由な人が目の不自由な人の道案内をすることができるようか。一人とも穴に落ち込みはしないか」と「弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積めば、その師のようになる」というイエスの2つのたとえ話も理解することが出来るのではないでしょか。誰か人を“導こうとする”ならば、ちゃんとこれから先の道行を見通すことが出来る者であること、そして、導かれる者も、自分を導いてくれている者を“師匠ニ先生”として尊敬し、少しでも師と同じレベルに達したいと願い、努力する者であって欲しいと！ このイエス様の思いに少しでも応えていく者でありたい！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 8月20日(水) 20:00
II. 8月21日(木) 10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈祷主題：ハンナの会を覚えて

担当者：(水) 金刺 (木) 橋本

祈りに覚える人：村上さん 森本さん

【教勢報告】

主日礼拝 男22 女45 計67

祈祷会 I. II. 休会

日曜学校 幼稚科4 小中科5 計9

【次週主日礼拝】 8月 24日(日)

聖書：イザヤ書 28:14~18

ルカによる福音書 6:46~49

説教：「ルカ 52 — 岩の上に立つ者として生きる」 武田真治牧師

讃美歌：127(1)、32、355、454(1~3)、

【次週当番表】 454(4~7)、83(1)

司式：鈴木長老 奏楽：羽倉 礼拝：金刺長老

献金：近森 圓谷 受付：金刺 坂田

会堂準備：大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：休み

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・牧師と語る会 ・お茶の会

・牧会/伝道/礼拝/社会教育 各委員会

66-33

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 8月 17日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549